第３回学校活性化那賀町地域協議会会議録

（学校訪問の報告）

委員
　学校訪問の報告をしてもらいましたが，どこも小規模校のようであり，再編対象になっているのではないでしょうか。

事務局
　視察に行った山口県の高校は，再編対象になっていると聞いています。

委員
　再編の対象になっているわけですから，様々なことを考えているはずです。もう少し，根幹の話を知りたいと思います。

事務局
　視察高校もその歴史の中で様々な取り組みをしており，それを参考にしていただきたいと思います。また，他の視察高校にも福祉コースがありますので参考になるはずです。

委員
　視察高校は再編の対象ということですが，努力していることがあり，参考になる点があるのではないでしょうか。

委員
　広島県の２校ですが，卒業後の進路を簡単でいいので教えてください。

事務局
　広島県の２校は，進学に力を入れることにより地域の信頼を得ようとしています。国公立大学の合格者数は，５名程度です。一方では，連携型中高一貫教育を始めた後，進学希望者が多くなっているということでした。
　また，両校とも就職希望者の指導にも力を入れており，就職希望者対象の補習などをしています。

委員
　広島県の視察高校では，連携型入学者選抜による入学予定者に，試験を実施しているということでした。また，保小中高所属長会議を実施しているということですが，それらについてもう少し詳しく聞かせてください。

事務局
　中高合同の各教科会を年間１０回を目標にするなかで，中高の教育内容のギャップを埋める「つなぎ教材」の研究をしています。連携型入学者選抜による入学予定者には，その教材を学習させ，３月末に試験を実施しています。
　その試験は，生徒の学習意欲を喚起するとともに，クラス分けの参考資料にするそうです。
　また，保小中高所属長会議については，小学校の生徒や保護者に中高連携についてもっと知ってもらい，この地域全体の学力向上のために，小学校段階から情報交換をするのが目的です。将来的には，保育所段階も含めて地域包括的教育システムを確立したいと考えているようですが，発足したばかりですので実質的な内容はこれからのようです。

委員
　那賀高校の現段階における進路の状況について説明させていただきます。３名が国公立大学，１名が福祉専門学校に合格し，２名が，センター試験に向けて頑張っているところです。人数は少ないですが，成果は出ていると思います。

委員
　視察先の高校の部活動はどうなのでしょうか。視察してどう感じましたか。

事務局
　那賀高校の方が，多数の部活動で頑張っていると感じました。しかし，それぞれの高校においても頑張っている部活動があり，一方では，野球部が頑張っていました。グラウンドも整備され，県外高校との練習試合も盛んに行われています。また，もう一方では，ソフトボールの町ということで,町内にソフトボールの審判ができる人が多数いるとともに,ソフトボール専用グランドが５つあり，小学生から指導をしているそうです。

委員
　鷲敷では阿南市内の高校に進学する生徒が少なくありません。視察先の高校では，連携高校への進学はどうなのでしょうか。

事務局
　視察高校では，連携型中高一貫教育の立ち上げ時には，かなりの数が入学していましたが，毎年そのパーセンテージが下がってきているとのことです。保護者の世代で他高校に進学した人が多いのが一因ではないかとのことでした。

委員
　今後，活性化の予算を付けて貰えるのでしょうか。

県教育委員会
　今年度の予算としては１００万円ついています。３年間の事業になりますので，来年度，再来年度につきましても，協議会でのご提案が実現できるよう予算要求していきたいと考えております。

委員
　視察に行った広島県の２校も再編対象校なのですか。

事務局
　２校とも研究指定を受けており，再編対象校ではありません。

委員
　生徒や保護者が那賀高校のことをどう思っているのか，どう評価しているのかをアンケートなどを通じて聞いてもらいたいと思います。

委員
　連携４中学校の生徒とその保護者にアンケートを取りました。交流学習については，６０．４％が分かりやすいと回答し，ＴＴ（ティームティーチング）については，５５．５％が質問がしやすく分かりやすいと回答しています。
　また，連携中学校の生徒は肯定的な意見が多くなっています。

委員
　運動会とかもありますし，生徒は知っていると思います。それよりも那賀高校をどう思っているかを知ることが大切です。また，保護者が「いい学校だ。」と言ってくれれば重みが違います。

委員
　保護者の方の那賀高校に対する意識はどうなっているのですか。

委員
　アンケートの結果は肯定的なものが多くあります。アンケートを実施することで，那賀高校を知ってもらうことに繋げていけると思います。

委員
　高校として，実態が分かるようなアンケートを考えています。中学生や保護者の那賀高校に対する詳しい意識などをお聞きしたいと思っています。

委員
　地域連携についてですが，今回の徳島駅伝では，那賀高校から４名の選手を出していただき，那賀町単独で出場しました。羽ノ浦町，那賀川町と一緒に出場したときと同じ１１位でした。高校から，それも野球部の選手を出していただいたことは地域の中での那賀高校の位置づけを理解してもらうのにとても役だったと思います。

委員
　人数が少なくなれば出場できるチャンスは増えるので，そこで素質が開花し伸びる可能性もあると思います。

委員
　学力，進学も大切ですが，野球部の生徒が掃除をしているのを見かけました。そういう躾ができている面もアピールしてほしいと思います。中学校のとき不登校だった生徒も，高校になって，元気に登校できていると聞いています。

委員
　全国へ世界へと羽ばたく那賀高生には，地域の高校として那賀町は全力をあげてバックアップしたいと考えています。今年もカヌーの選手がアジア大会，世界大会に４名出場した際には，補助をさせていただきました。

委員
　プロ野球に行ったＯＢもいますし，いろいろな分野で卒業生が活躍しています。その先輩達と小中高生が触れ合う機会を持ってもらえたら進学希望も増えると思います。

委員
　カヌーの世界大会に行った人の中にも那賀高ＯＢの大学生がいました。

委員
　現在の那賀高校カヌー部では，日本代表でオーストラリアに３年生が１名行っています。

委員
　カヌー部の生徒の進学状況はどうなっているのですか。これだけのレベルでやっていますので大学でも続けるのでしょうか。

委員
　３年生男子３名のうち１名が地元で就職し，残り２名は大学に進学して続ける予定です。

委員
　できれば指導者として那賀町に帰ってきてくれればと思います。

委員
　カヌーは地域性から考えても良いと思います。キャッチフレーズからも，ぜひ，存続させていくようにお願いします。
　「町から高校へ，高校から町へ」とあります。合併して那賀町となり力強く歩み出していますが，急激な人口減少と広域であることから人間関係が希薄になっているように思います。幼小中高の文化祭や運動会を開催していた頃には，高校がどんなことをしているかわかりました。しかし，今は，高校のことがよく分からないまま進学しているように思います。児童，生徒の交流などを通じて，高校の理解が深まらなければならないと思います。

委員
　小中との連携は，地域が広いため，対応が難しい部分もあります。しかし，来年度は，社会福祉協議会ともご相談させていただき，那賀高主催の福祉餅つき大会を，地域の方にもお手伝いいただきながら実施したいと考えています。このような機会を通じて，那賀高校へ多くの方に来ていただきたいと思います。
　那賀高校活性化の概要図については，根幹から支えるということで「地域と学校のコラボレーション」を下にしたほうがいいと思います。

委員
　「地域と学校のコラボレーション」が一番下にということですね。部活については逆か並列でもいいかもしれません。

委員
　コラボレーションを一番下にし，部活動だけでなくいろいろな分野で扉を開いて世界に羽ばたくという順番がいいと思います。

事務局
　活性化について具体的にお考えいただいていることがあれば，お話いただきたいと思います。進路や部活動，地域の連携についても記載していますが，これについても，また，これ以外でもお話しいただいて，委員の皆様で内容を深めていただく形でお願いしたいと思います。

委員
　部活動やコース制にしても実施するのは高校の先生です。学校長の思いや地域の思いを理解できるような教員配置をしてほしいと思います。

委員
　新しく先生に来ていただくことと同時に在職の先生を育てていくことも重要です。中高連携の意義や中学校への関わり方をもっと勉強し，積極的に中高連携と関わってもらいたいと思います。
　中高連携について，中学生や保護者にアンケートを取っていますが，まだまだ一般の方には浸透していません。来年度には，那賀高校ホームページに中高連携について掲載したいと考えており，若手の先生方に案を依頼しています。那賀高校の置かれている現状を教員自身が理解し，そのためにはどうすればいいかを学校全体として考えている最中です。
　委員の皆様方にはいろいろとご助言いただき，那賀高校存続のために出来る限り努力していきたいと思います。

委員
　県教育長に対して，那賀高校の発展に向け，連携を進めるために町内４中学校のＴＴの加配についてお願いをしています。

委員
　那賀高校生のあいさつがよくできていること，また，授業内容の充実を実行していただいていることは，よく分かっています。
　まずは，在校生を育てること。そして，素晴らしい指導法を持っている先生に来ていただきたいと思います。
　昨年，中学校の特別活動部会で中高連携について発表しましたが，やはり，高校と接する時間が多いほど中高の理解が進みます。福祉餅つき大会など，高校も忙しいとは思いますが，そういう機会を設けてほしいと思います。

委員
　来年度は年度当初に年間計画を作って連携を深めたいと思います。できれば，４中学校のＰＴＡ総会に出席させていただいて，保護者の方に那賀高校のＰＲをさせていただきたいと考えています。その時にはよろしくお願いいたします。

委員
　いろいろな機会を利用して，積極的にＰＲしてもらいたいと思います。
　現在の入学希望者は，どのようになっていますか。

委員
　先日の新聞報道では，定員８０名には足りないのですが，部活動などで，町外からの希望も聞いていますので，最終的には集まると考えています。
　来年度の町内中３生は，６５名と少なく，定員８０名の確保が厳しくなります。そこで，阿南市内の中学校の進路指導担当者に来ていただいて，那賀高校のいいところ，生徒の成長を見ていただきたいと思います。そうすれば那賀高校に生徒を進学させたいと思ってくださるはずです。

委員
　中学校の先生方が，どれくらい中高連携を理解し，力を入れてくれているかに問題があると思います。連携が開始された当初は，地元の中学校からたくさんの生徒を送ってくれましたが，今はだんだん阿南市内に流れているということですので，もっと理解してもらうことが必要です。
　高校卒業後の進路結果が，中学生の進学に影響すると思いますので，中学校から送ってもらった生徒には，責任を持って，本人と保護者が希望している進路が達成できるようにしてほしいと思います。

事務局
　進路希望の達成ができるようにするには，どうすればよいのか，委員の皆様のお知恵をお借りしたいと思います。

委員
　自主的に学ぶ，学びたい気持ちを起こさせるようにしなければなりません。早朝補習などもしていただいていますが，生徒が自主的に学ぶために教室を開放するなどの形を取っていただきたいと思います。勉強したいと思っている生徒もいますので，自主的に学ぶ場所があったらいいと思います。

委員
　先日，ＰＴＡの会がありました。その時に，ある高校では，高校の先生方が塾の講師から指導法を学んでいると聞きました。

委員
　町の子どものようにはいかないので，勉強場所の確保が重要です。この地域には進学塾がありません。それに代わるような場所が必要です。

委員
　土曜の開放講座をさらに充実させること，モチベーションを高めるために，他の高校と学習合宿を行うことなどを考えています。

委員
　中学校で確かな学力を身につけさせた上で，那賀高校に送り出さなければなりません。中学校での取り組みが大切だと思います。

委員
　連携型入学者選抜に学力検査がないことにより，楽に進学ができると考え，生徒の学力が下がっているという意見を多く聞きます。大学などに進学する時にもそれが問題になるのではと心配しています。

委員
　連携型入学者選抜において，学力検査を取り入れて貰えないでしょうか。合否に関係するのではなく，生徒の学習意欲の喚起を促し，入学する生徒の学力を高校として把握していただきたいと思います。

委員
　保護者も学力検査を希望する人がおりますし，高校側でも考えていただけると聞いております。
　また，中学生の学力については，県教育委員会の調査を基にして，対応しているところです。

委員
　小学校でも学力格差を感じるようになってきました。高校入学までにどこかの時点で学力検査をすることが必要なのではないでしょうか。もちろん，小中でも学力をつけるよう努力しますが，生徒には厳しさがあることも分かってもらいたいと思います。

委員
　活性化の中で学力の向上が言われています。中学校の先生，保護者の方からも連携型入学者選抜についてはご意見をいただいています。しかし，連携型中高一貫教育の特色の一つには，連携型入学者選抜において学力検査を行わなくてもよいことです。
　ただ，高校としても，生徒の学力向上は，大いに賛成しておりますので，出来れば検討していただきたいと思います。

事務局
　入学者選抜に学力検査を盛り込むことについては，連携型中高一貫教育の趣旨を理解した上で，どれだけの効果があるのかを考えなければなりません。それよりも，地域協議会では那賀の中高連携だからこそできる学習意欲の向上について考えていただきたいと思います。
　学力の向上については，資料にも記載しておりますが，コース制にも大きく関わってきますので，それも含めてご検討いただきたいと思います。

委員
　コース制については分かりにくいところがあります。学校からの提案はありますか。

（コース制について説明）

委員
　子ども達は中学生の時からパソコンに親しんでいます。高校卒業時には使いこなせるような授業はあるのでしょうか。

委員
　パソコンについては教科「情報」があり，全員が必修です。

事務局
　コース制についても活性化に繋がるような提案をしていただきたいと思います。

委員
　阿南市内の普通科に進学できる学力を持つ生徒も，地元で頑張る方がいいのではないかと思っていますので，そのことについて中学校の校長先生ともお話をさせていただいています。しかし，なかなか保護者からの理解が得られないこともあるようです。
　大学へは，地元高校からの推薦で進学するようにできないかと思います。

委員
　先程のご説明で地域性，生活環境などにより，消極的な生徒が多いという話がありました。学期に１回でも同じ目標を持つ生徒たちが集まってディスカッションする場を設けてはどうでしょうか。お互いに意見をぶつけ合うことで，活気が出ると思います。
　学習したことを発表し，その発表についてどう感じるかが大事です。コースも今より，もっと少人数にするほうがいいと思います。

委員
　現在，環境コースでは環境関係に就職する生徒も少なく，資格取得を中心に再編したいと考えています。そこで，商業関係の資格取得が出来るコースも考えられます。
　また，看護・福祉関係，情報関係では資格を取得し，就職する生徒も多くいるなど，現在の状況を検討し，生徒のニーズに応じてコースの再構築をする必要があると考えています。

委員
　進学実績を上げることを，地元中学校へＰＲする必要があると思います。町外の生徒については部活動を中心に考えて，進学してくれている生徒もいますが，交通手段のデメリットがあります。そのことについては，町の教育長と相談させていただいています。　阿南駅，橘，桑野を経由して那賀高校へくるようなスクールバスなどがあれば，阿南市内の生徒も進学しやすいのではないかと考えています。

委員
　スクールバスは，様々な用途に利用できますが，財政的にも厳しいところがありますので，路線バス会社と相談して，生徒の利用状況から費用を試算してもらい，スクールバスを持つことと，どちらが安いのか相談したらいいと思います。

委員
　那賀高校が本校として維持できるのであれば，町としては，スクールバスを持つことについて検討してみたいと思います。
　また，寮についても，町として検討していきたいと思います。
　まずは，学力のついた生徒を那賀高校に送り出すことが町の使命と考えております。

委員
　阿南市内から長生回りで那賀高校へ通学できるバスの便がうまくつながっておりませんので，バスの便が良くなればその地域の生徒が那賀高校へ進学しやすいと思います。
　キャッチフレーズについては，「目指せ全国へ世界へ」がいいと思います。ただ，コラボレーションという言葉が一般的に定着しているのか疑問です。カタカナが多いようにも思います。

委員
　「なかなかいいぞ那賀高校」は，「なかなかいいぞ那賀高プラン」にしたほうがいいように思います。

委員
　「目指せ　世界へ　全国へ」とありますが，今の現状からは体育部の活動が中心になると思います。カヌー部，バレー部，剣道部，野球部などを具体的に掲げた方がいいと思います。

委員
　文化祭や体育祭などの交流，ＴＴの事も記載した方がいいと思います。

委員
　今年度，大学に合格した生徒は，中学校時代からボランティアに取り組み，先日，表彰されています。ボランティアについてもＰＲをしてよいと思います。

委員
　ボランティアの事も記載してはどうですか。資料には柚子の絵が４つありますので，生きる力，学び，体，心が入ると思います。その上で，高校独自の取り組みを入れればいいと思います。

委員
　「町から高校へ，高校から町へ」ということで，駅伝においても協力できました。また，来年度は福祉餅つき大会を予定していますので，地域の方にご協力いただくことになります。今後，継続できるのであれば記載したいと思います。

委員
　生徒の自主性を重視した挨拶活動についても記載していいと思います。挨拶活動は那賀町，高校ともに取り組んでいます。

委員
　オーストラリアとの国際的な交流については，どうですか。

委員
　来年度はセントメアリーズ校との交流の年になっているので，計画を立てて行きたいと思っています。現在，事前の打ち合わせをしているところです。

委員
　セントメアリーズ校の生徒が来てくれるときには，地域住民及び小学生とも，これまで以上に交流ができたら良いと思います。

委員
　オーストラリアとの交流に関することを，キャッチフレーズの「高校から町へ，町から高校へ」の中に入れてはどうかと思います。
　今年，海外への修学旅行を計画しようと，１年生にオーストラリアへの修学旅行の希望を取りましたが実現しませんでした。保護者は行かせたいという意見が多くありましたが，子供が行きたくないという意見が多かったようです。

委員
　修学旅行の形は変わってきたんでしょうか。

委員
　現在，那賀高校では長野県でスキー研修を行い，その後，東京で研修を行っています。個人的には海外も含めて２つぐらいコースを考えていますが，現在の所，海外への希望者が少ないと感じています。

委員
　那賀高校は農林科と家政科がありました。それが普通科に変わりましたが，最初は進学も少なかったのです。商業・工業は専門的な内容を習っているので資格が多く取れるし，就職の勉強などもできると思いますが，どうでしょうか。

委員
　普通科ですので高校の授業でなかなか資格を取るのは大変だと思います。だから，専門学校などに進学するのだと思います。

委員
　大学へ進学するのもいいが，あれもこれもやっていくと考えると特徴が無くなっていくのではないかと思います。

委員
　那賀高校の子ども達の学力が幅広いので，教える側も非常に難しいところがあります。しかし，教える側には，少しでも学力を伸ばしたいという思いもあり，そうした中で高校を維持していかなければならないところに難しさがあると思います。

委員
　普通科の中のコース制であり，工業や商業のような科ではないので，専門的な分野は弱いところがあります。ただ，生徒の将来に対応したコースを考えていきたいと思っています。

委員
　だれでも学校訪問できるということがあったら良いと思います。

委員
　那賀高校の図書室は，いつでも開放しています。

委員
　孫や子供が在籍していないと行きにくいところがあるでしょう。つまり，学校に来てもらえるような工夫が何か必要です。那賀高校へ行けば何かメリットがあるというようなものを考えてはどうでしょうか。

委員
　高校の敷居は高いと思います。小学校や中学校と同じ日に行事があればその保護者も学校へ行きやすいのではないでしょうか。あるいは，高校の生徒が小学校や中学校の行事に参加するなどの工夫が必要だと考えます。

委員
　保幼小中高が参加できる音楽会をするなどしたら，親が参加できます。日曜日や土曜日だと参加しやすいと思います。餅つき大会は，多くの方が参加できて良いでしょう。

委員
　中高一貫の良いところはあるのに，それを知らない保護者は大勢います。

委員
　ケーブルテレビを活用できるのではないでしょうか。行事などは放送してくれます。中高一貫の行事を放送するというのは良い考えだと思います